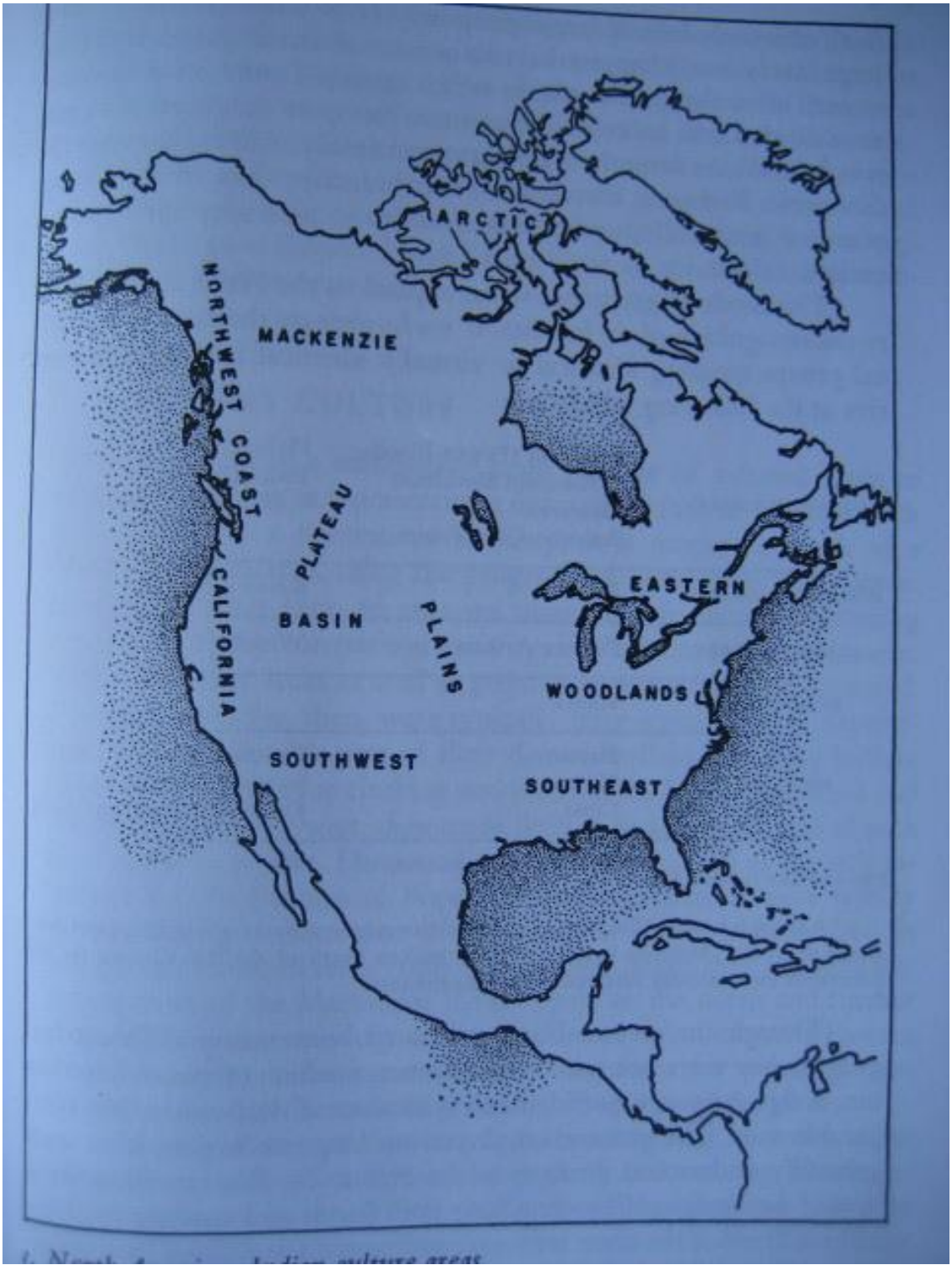
# 第一章

## 序論

この本の主題とするところは、Plains Indians が発見されてから、彼らが、いわゆる白人達のやり方にほぼ完全に同化してゆく過程での、彼ら自身の文化というものについてです。”Plains”というのは、地理学的にいうと、必ずしも厳密な定義はありませんが、だいたい、Canada との国境沿いに Mississippi 川と Rocky 山脈に挟まれた地域をさしています。あるいは、言い方を変えれば、いわゆる"Prairie” belt というものがありますが、この地域を除いた地域とも言えるかもしれません。いずれにしても、これを狭い意味で、厳密に規定することには無理があります。Plains というものが、たしかに、その土地が乾燥しているということから穀物栽培をしているかどうかにより:そして、伝えられるところによれば、Prairie の土は、薄黒い色をしているとも言われているが、区分けされるものと考えられている。とは言え、こうした定義のどちらも、完全なものであると言い難い。土の性質が次第に変化していくのは、丁度、旅人達が東に移動してゆくようなものだし、従って、こうした基準によってひかれた境界線などというものは、任意的なものなのである。現実の Plains 地域は、わが国で農場を営んでいる他の地域の年間降雨量が、30 インチから、それ以上であるのに対して、この地域の雨量は、20 インチ以下という乾燥した土地なのである。だから、こうした地域には、木も育たなければ、また、水不足でも耐えられるような代表的な植物、そして、バッファローの食料となる草さえも育たないのである。しかしながら、こうした観点にたつと、やはりまた、その固定的な定義は難しい問題となるのである。1894 年、カンザスの Hays という町は、降雨量は、わずかに 11.80 インチしかなかったが、別の年には、35.40 インチの降雨量を記録している。あるときには、この地域全体が例外的な干ばつとなったり、あるいは、逆に、異常なほどの高い降雨量をもったりはするが、しかし、大体においては、この Plains の多くの場所では、そうした、一貫性をもっていないのである。そうした、継続的な変動が、降雨量の多い年には、背の高い草が生えるなど、Prairies の地域との違いをなくしているのである。気温に目を向けるとやはり、大きな変動があることが分かる;同じ年でも、地域によっては大きな違いがある。たとえば、テキサスでは、30 日以上も連続で、100° F を超えた日が続く一方で、North Dakota では、同じ一ヶ月間の間にそうした日はわずかに二日だけという具合である。; そして、その翌年には、まるでそ逆のような状況が起きていることさえある。




北アメリカインディアンの文化領域

また、非常に狭い範囲に地域を限定したところで、その中でもかなり大きな違いが見られるのである。South Dakota の南東部分に広がる台地は、1,100 フィートの標高であるが、Black Hills 地域は、標高が 5,000 フィートある； そして、前者の地域か年間降雨量が、30 インチ程度であるのに対し、この州の南西部には、ほんのわずか、14 インチの雨があるだけである。

従って、地理的な意味合いで、Plains Area という地域に厳密な定義をつけるのは、全く不可能なことなのである。さらに、文化的なことから考えても、はっきりとした境界線を描くというのはさらに不明確なものとなる。これは、Plains に住んでいる多くの部族が Prairies や東方の森林地帯から移住してきたということが歴史的な記録や信頼できる伝統として残っていることなどからである。というわけで、われわれには、Short-grass 地帯というものを定義づけるということが不可能なのであるが、とはいえ、その地域の検証の中では、Montana, Wyoming, Colorado, 南北の Dakota, Nebraska, Kansas, Olahoma, そして、北部の Texas、さらには、Minesota, Iowa, Missouri や Arkansas ももちろん、これらに加えて、南部 Alberta, Saskatchewan,や Manitoba,地方も加えておく必要がある。現実な問題として、どんな地域であれ、その隣接する地域、そこは、便宜的に”境界”という風にみなされているが、底に住んでいる部族のことを無視するわけにはいかないのである。

## The Plains Tribes

原住民の人々は、しばしば便宜的に彼らの言語学的な由来に基づいて分類分けされている。似たような言葉を話すグループ同士は、そこに多少の違いがあるにしても、お互いに交流することができ、そうしたグループは、同一の言語の派生語を話しているのだとみなされるべきである；そして、もし、相互の理解をするのにその隔たりが大きいような場合には、われわれは、違う言葉を話しているのである。しかしながら、この様な場合でも多くの場合は、その言語は、多分何世紀か以前、もしくは、何百年か前に共通のもととなるような言葉から発生したものという仮説によって説明されることができるほどよく類似しているのである。このことは、英語、ドイツ語、そして、スウェーデン語のことを考えれば間違いのないことだし、また、ロシア語にしても、その語彙や文法を綿密に研究していくと、こうした言語と何らかの関係のあることが明確になってくる。
こうした、究極的に関係しあった言語同士が集まって一つのグループを形成している。(Stock 語系という)。そして、ある一つの大きな語系のなかでは、二つ、あるいは、それ以上に沢山の言語が、他の種の言語よりは、より密接な関係を持つことが良く見られ、、そのような場合には、その語系は便宜的に派生語のように系統化されている。このようにして、ほとんどのヨーロッパの言語と中央アジアのいくつかの言語が、Indo-European 語系というものを作り上げているのである。その語系にあるものとしては、ドイツ語、ローマ語、スラビア語、そして、その他の派生語などがある。そして、それらのほとんどの語系は、

わずかの明確な言語を形作っており、今度は、それが、様々な地方語にと分かれていっているのである。

この分類わけの形を、Plains Indians の場合に当てはめてゆくと、6 つの語系統に分類わけすることができる。ここで、こうした政治的な集団を話し言葉の違いや、実際の言語に従って系統化してゆくと、次の表に書いたようなグループをすることができる。

| | | |
|---|---|---|
| ALGONKIAN FAMILY | Blackfoot(Piegan-Blood-Northern Blackfoot )<br>Cheyenne<br>Arapaho-Gros Ventre | Plains Cree<br>Plains Ojibwa<br>( Plains Chippewa ) |
| ATHEBASKAN FAMILY | Sarsi | Kiowa Apache |
| CADDOAN FAMILY | Pawnee-Arikara | Wichita |
| KIOWAN FAMILY | Kiowa | |
| SIOUAN FAMILY | Mandan<br>Hidatsa<br>Crow | Dakota-Assiniboin<br>Iowa-Oto-Missouri<br>Omaha-Ponca-Osage-Kansa |
| UTO-AZIECAN FAMILY* | Wind River Shoshone-Commanche | Ute |

* 近代の言語学者は、これらの言語と Aztec ならびに Mexico 言語とが関係あるものと認識している。そして、Rio Grande の北部で話されているこれらの言語が ”Shoshone 語“ の一部であると考えられている。

いくつかの Plains の部族が沢山の様々な言語を話しているが、それらは、お互いの意思疎通をはかる通常の手段ではなく、いわゆる聾唖者たちのそれともすこし違うが、それと似たような、サイン言語によって意思疎通を図っているのである。様々な意思を表現するために使われている身振りというものは、一般的に Plains 全体を通して理解されうるものであった。これを説明するものとして、たとえば、“寒い”という観念は、両方の手をしっかりと握り、そして、胸の前で震えるような身振りをして前腕を交叉させた。“酋長”をあらわすときには、四本の指を上を指すようにして掲げ、その後、指を反対向きにして下におろすというものであった。また、“雨”とか “雪”の場合には、手振りは手を肩の高さに保持して、指を下向きにし、手のひらを下ろして、それから、下のほうに押し付けるとい

うものであった。それは、あたかも意思疎通を図る方法としてはあまり効率の良いもののようには思われなかったけれども、その適用性は考えられているよりもずっと高いものであった。たとえば、ある一人の Cheyenne 族のものは 自分の Crow Indians 族との戦闘の数を、彼の話すことばが理解できずとも、相手に伝えることができた。あるとき、一人の Shoshone の者が、人間を引っつかんで、食べるという巨大な鳥の伝説を著者に説明したことがあるが、その話はすべて身振りのサインで話されていたと著者に説明してくれた；そして、Kiowa 族では、彼らは、Hugh Lenox Scott 将軍に、彼らのあの複雑な Sun Dance の儀式の体の動きの意味について説明をしていた。

## Plains　Culture

こうした部族は、生活の明確な形態を代表するようなものとして分類わけできる非常に沢山の文化の流れというものを共有している。彼らが、ある一つの場所に長いこと住んでいる限りにおいて、より広い意味において、地理学的な項目を使い、“Plains”の文化地域を物語っているというのが適当であろう。そのような地域を特徴づけようとするときには、われわれは、唯一、比較するということにより、一つの文化を明確に分離することができるので、その周りの地域のことについても十分に注意を払わなくてはならない。このことは、現実のはっきりした出来事と同じように、不明確な出来事に対してもわれわれは注目してゆかねばならないことを意味している。Plains の人々は、バッファローを自分達の食料の重要な供給源としていたこと、そして、バッファローや鹿の毛皮を用いて、衣料としたり、容器などにしていたという、とりわけ、大規模な狩猟の民族であった。それより西部に広がる、Basin や Plateau に住んでいる部族たちと違って、彼らは、魚を取ったり、ウサギのよなう小さな動物の狩猟はほとんどしなかった。また、いまもなお New Mexico や、Arizona の Pueblos 族が使っているような、石作りの家やレンガ造りの家には住んでいなかった。Plains インディアン達は、一年の少なくともある時期には、毛皮で覆われた円錐形のテント( tipis)に住んでいた；これらのテントは、Mackenzie River 領域からその北の地域で使われているテントと似たような形をしていたが、それよりもずっと大きなものであり、明らかにそれらとは違っていたし、また、煙が排出されるように特別の工夫がなされていた Eastern Woodland 地域でよく使われていた毛皮のテントなどとも大きく違っていた。分類分けとしては、大きな範疇として、季節的な Tipis という分類に属していた。

こうした場所に生存してた古来の動物は犬であった。そして、それらはほんのわずかの部族のあいたでは食料されていたが、一般的には、それらは、荷物を運ぶときの牽引用の動物として使われていた。スペイン人が馬をこの地にもたらし、これが、狩猟の方法や輸送手段に、決定的な変化をもたらした。そして、副次的には生活様式さえも変えてしまったのである。自然環境に恵まれていた Plains のインディアンたちは、馬に乗り、遊牧する民族に変貌し、Pueblo, Woodland そして、Basin に住むインディアン達とは決定的に違う

道を辿ることになった。しかしながら、この変化というのは、決して 18 世紀以前に起きたものではないのである。現在の New Mexico 地域へのスペイン人の入植が、こうしたものの供給の源であり、その新しい生活様式というものが、ゆっくりと、北の地方にと広がっていったのだった。( 40 ページ参照 ) 従って、騎馬文化とそれに伴う生活習慣というものが、わずかその始まりから、18 世紀に入っていくその間の特徴なのである。馬というものが導入される前も、また、その後も、移動というものは、陸地での出来事であって、Woodland 船やカヌーなどは、この地域のほんの東のほうに住む部族にはあったかも知れないが、そのほとんどの地域には、そうしたものは利用されていなかった。

工芸技術という観点に立つと、この Plains Indians たちは、とても素晴らしい衣装を着けていたし、毛皮や衣料用の布を上手に使っていた。彼らの西部、もしくは、南西部の隣接するインディアン達は比べ優れていたのは、彼らが、編み物や、かご作りの技術においては、彼らに追随を許さない技術をもっていたことだ。木工の技術においては、それほど発展していたとは思われないが、それでも、彼らは、ヤマアラシのとげの刺繍をたくみに施したり、あるいはまた、装飾用に羽飾りを使い素晴らしい見栄えのするものを造る技術を持っていた。

ここで、物質的なものでない、いくつかの特徴について言及しておく必要があろう。Eastern Indians たちと同様、Plains Indians たちもまた、非常に戦闘好きであり、こうしたことも、また、Basin や Plateau に住むインディアン達の気性とは顕著な違いを示すものであった。ある時期にだけ、警察の機能をもつというのも、この地域に住むインディアン達の特徴であった。そして、ある一定の人たちだけの組織が、自分達の機能の一部として軍事的な役割を推進していくということが、広く広がっていた。また、様々な儀式を執り行うときのメンバーの数と、その組織というものが、この Plains インディアンと、Bain あるいは、Plateau のインディアン達との間に顕著な差があった。そして、そのもっともはなはだしいものが、毎年実施される Sun Dance の儀式であった。ペインティング、刺繍、あるいは、ビーズの芸術、それらは、真っ直ぐに描かれた幾何学文様、生皮に描かれた図柄などに特徴があった。この地域の東部の境界を例外として、近代まで、なぜか花模様がないというのが、Plains の芸術と Woodland 芸術の違いとされてきた。

こうした、これまでに述べた様々な観察事例を挙げれば、Plains の部族と、そのほかの地域の部族とを区別するのに十分であろう。しかしながら、ここで、さらにいくつかの補足をすることも必要なことではないかと思われる。まず、最初に、その外側に住んでいるいくつかの部族、たとえば、Ute とか Shoshone 族といったような部族は、宗教的なもの、あるいは、社会組織的な特徴よりも、見た目、もっとも、彼らの中ではもっともやせている部類になるのであるが、が非常に良く似ているのである。ついで、南部 Siouans 族、そのほか、Pawnee, Mandan, Hidatsa そして、Arikara 族など、彼らは、紛れもなく、はっきりと副次的な類似文化を持っているのである。それは、Plains インディアンの持つ基本

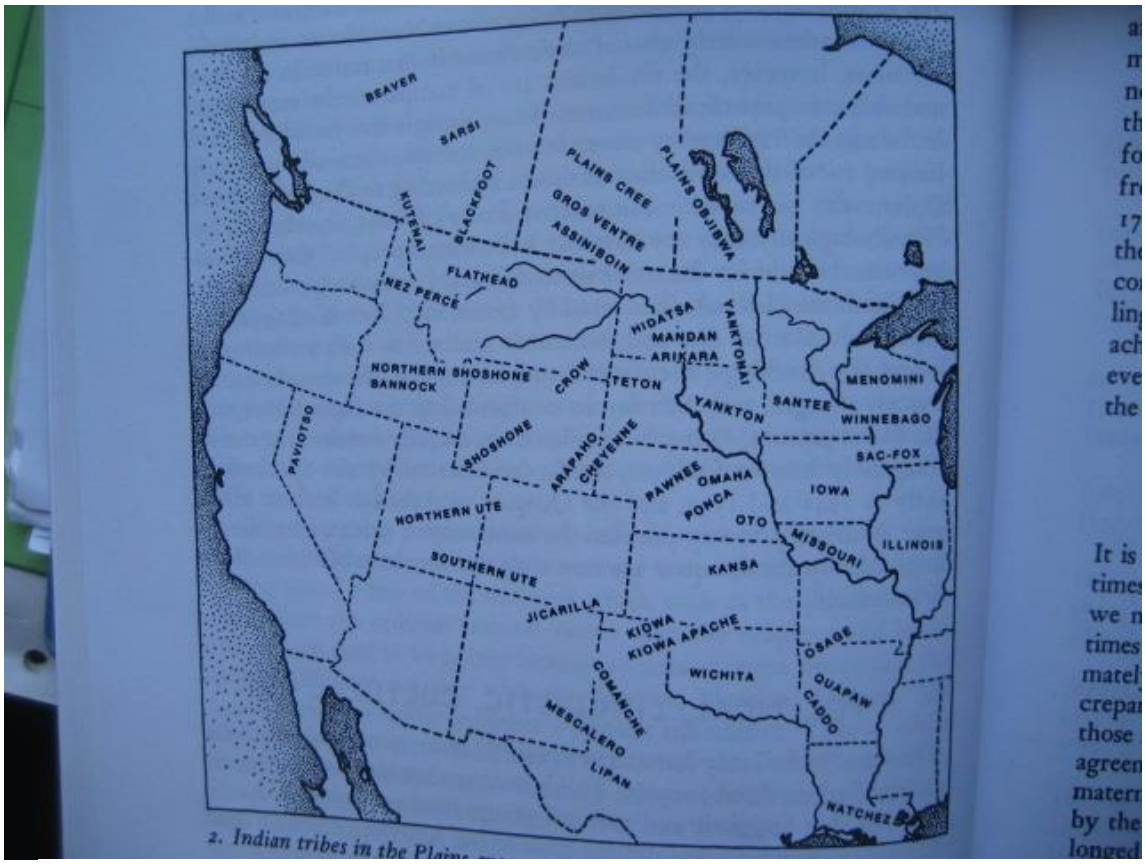
的なもののすべて、もしくは、そのほとんどを有していながら、さらに、それに、農業文化に基づくもの、あるいは、さらに付随的な土器製造技術やアースロッジのような固定式の住居に一時的に居住するなどという、さらに違った文化なども付け加えてもっている。

そして、結論的には、こうした境界線を引くということについては、文化的なもの、あるいは、地理的な、いかなる分類わけをするにしても、そこには、必ず、不確定要素が含まれてくるということである。ある特定の周辺の部族を含むかどうかということは、それは、目的に応じて随時なされるべきものである。こうしたことから、最近では、British Columbia 地方と同じように、北部 Idaho から Montana にかけても沢山住んでいる、Upper Kutenai 族は、勝手は、Rockies の東の地域にも住んでいたことがあるが、彼らは、カってはバッファローの狩猟をしていたし、Blackfoot や Cree 族から、Sun Sance のような儀式も導入して、文化として保有していた。彼らは、それらの部族からは、自分達の一派だと見られていたし、また、Algonkian 語を話す人たちとも思われていた。また、いくつかの Plateau グループ族といわれるインディアン達、――― Flathead, Nez Perce< Yakima, Spokane 族といった部族―――彼らもまた、定期的に狩猟をするために Plains に進入してきていたが、しかし、身に着けている衣装とか、あるいは、装飾の紋様などは、明らかに違っていたし、Plains の部族からの文化的に影響はほとんど受けてはいなかった。

そして、Uto-Aztecan 族に属する、アイダホに住む次の二つの部族 Bannock 族と、Northern Shoshone は、Plains インディアンのと一部の部族と概観が似ているのである。そして、北部 New Mexico から 南部 Colorado に住んでいる Jicarilla Apache（arthabaska）は、Palins インディアンの文化と似たものを持っている。しかしながら、こうした事例のなかで、似ているということは、比較的最近になってのことであり、とりわ、外見上のものであることが多い。このように、Jicarilla は、Plains でバッファローの狩猟はするが、彼らは、決して、それを快く思ってやっているのではなく、そのなれない土地からは、直ぐに立ち退いている。Morris Opler 教授、彼は、Apache 族のほとんどを比較研究した人であるが、彼は、“ 精神学上では、彼らは、Plains インディアンとは違う、なにか別の部族である”と言っている。同じような事例が、そのほかにも不明確な事例の中にある。たとえば、1805 年に Lewis と Clark によって発見された、Northern Shoshone（Idaho）族は、魚の狩猟に多いに依存していたし、また、彼ら先祖伝来のグラスロッジによく住んでいた；彼らの社会的なそして、宗教的な習慣は、常にきわめて貧相なものであったし、彼らは伝説は、Plains インディアンのものよりも、Basins インディアン達のものに良く似ていた。また、別の境界地域に住む部族の場合には、1541 年と 1542 年にスペイン人と出くわした、Caddoan 系列の部族や、Quapaw,さらには、Arkansas Indian なども、不適切と思われるが、仲間に加えられていることがあった。しかし、これらのインディアン達の文化は、Quapaw の場合には、言語学的には、Siouan 系の体系に属する Omaha 族の分派の一つなのであろうが、南東部の Plains Indian の文化地域に属するものとされている。、

## 政治的、減語学的、ならびに、文化的な単位について

この“部族”という言葉は、市民としての人々の“国家”に相当するものとして、政治的な意味合いにおいて使われているものなのであろう。この言葉が、もし、否定できないものであるならば、われわれは、言語学的、ならびに、政治学的な分類わけは、必ずしも一致する必要がないということを考えなくてはならない。同じ言語を使用するということが、アメリカ人の入植者達が新しい国家を見出すことを妨げるものではなかったが、一方、Omaha 族 や Ponca Indians 達は、分かれて、そして、互いに戦いあったのだ。別の言い方をすれば、言語学的には、彼らは、依然として一つのものとして残っているが、政治的な見方をすれば彼らは二つの部族に分かれていった。Pegan ， Blood,そして、Northern Blackfoot は、喋る言葉がほんのわずかに相違するだけであるが、しかし、政治的には、彼らは互いに独立していたのである。Dakota について言えば、彼らは、通常、“Sioux”族として理解されているが、d,n,そして、l の使い方がはっきりと違い、これにより、大雑把に




2. Indian tribes in the Plains

**Plains 領域におけルインディアンの部族**

三つの論理体系のグループに分かれている：東に位置する、グループは、喋る言葉の部族の名前として“Dakota”族と呼ばれ、そして、中央部の部族は、( 彼らのことを Assiniboin というのは、副次的な分類体系のものである )は、代わりに“Nakota”族と呼ばれ、最後

に西部に居住する部族はか“Lakota”族と呼ばれているのである。しかしながら、こうした様々な言葉の違いはほんの少しであるので、宣教師達が、Santee( Eastern )から、Teton ( Western ) にかけての話言葉を記録したときに、彼らは、自分たち自身のしきたりで発音したにしても、それを何の問題もなく読むことができた――英語の本の中には、“clerk”と書かれているものをアメリカ人は性格に読むけれども、書いた者は、それを“Clark”と発音していた。しかし、政治的には、彼らは全くの異なる Dakota グループに分かれていたのである。

手短に言うならば、“部族”という言葉が、政治的か、あるいは、言語学的に理解されていたのかどうかということを明確にする必要がある。

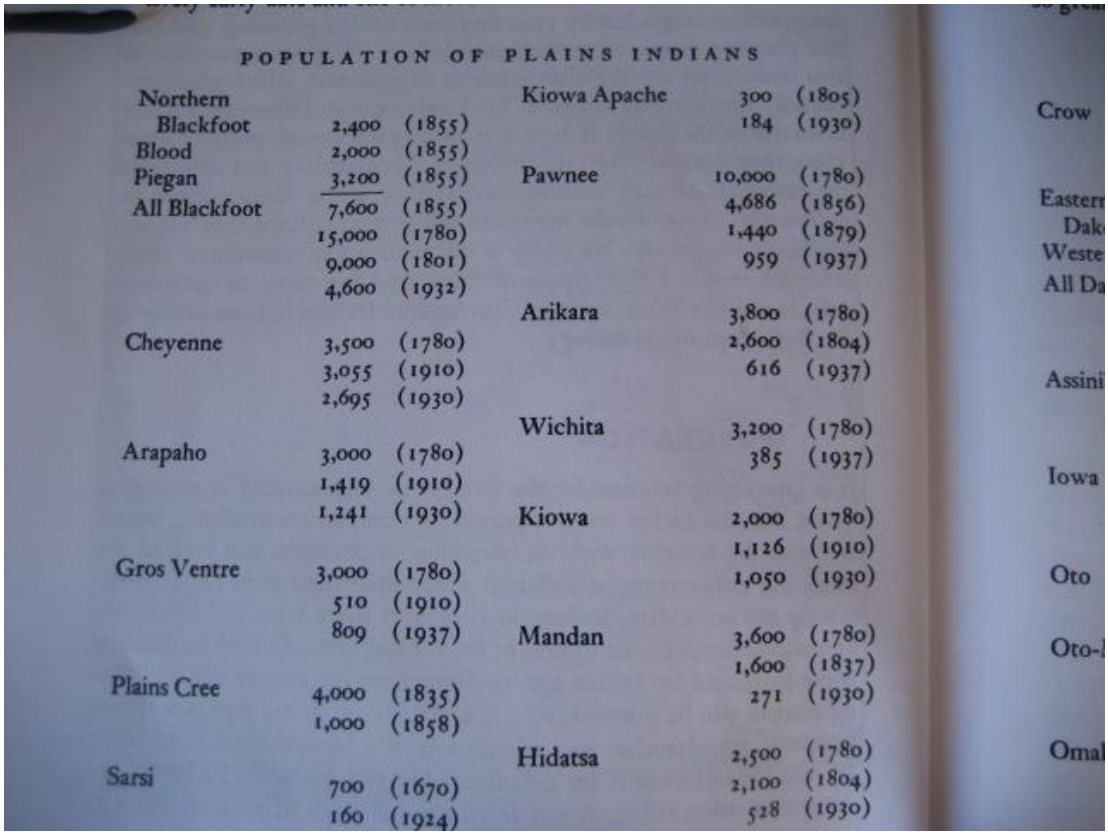
もし仮に、二つのグループが話し言葉において、同一、もしくは、きわめて似ているのであれば、それは、彼らは、比較的つい最近になり分派したものであるという仮説がもっともようであるから、従って、その双方が、基本的には今でも似たような様式の生活スタイルを保持しているということができよう。しかしながら、底には、なんら規則的なものは存在しないのである；環境の変化というものが、それに対応するために新しい様式を取り入れたのであろうし、それ以前の生活様式を喪失するようなことにしたものと思われる。Teton 族は、数世紀前までは、他の Dakota 族から切り離すことはできないが、しかし、1700 年までには、彼らは、野生の米を収穫しているわけでもないし、Santee のようなやり方でカヌーを操っているわけでもなかった。ここでのつながりで非常に重要であるのは、彼らの文化に深く変化をもたらした異なる部族との交流なのである。Sarsi の言葉は、ごくごくわずかではあるが、Beaver Indians のそれと異なっているが、しかし、南のほうに移住し、多分、1700 年ごろのことであるが、彼らはそこで、Blackfoot 族と接触し、彼らの基本的な生活様式とどうかしていったのである。といわけで、彼らは、ある歴史の段階においては、彼らの言語学的な同属の部族よりも、もっと、北の Plains 族のインディアンたちに生活様式と似たものを持っていた。当然のことながら、完全なる変容が、時代の非常に短い期間の間に達成されるということは稀なことである；Cree 族は、Far West という地域でさえも、雪靴に固執していたし、また、Uto-Aztecan のバッファローの狩猟者たちは、Basin に住むインディアンたちの神話をいつまでも信じていた。

## ,人口密度

先住民族たちが、その当時、どの程度の規模で生活していたかということを考察するのは、とても興味深いことである。それよりもっと以前の時代については、こうした調査は不可能であるので、われわれは、旅行者とか、行商人の数から推定することに甘んじなければならない。時には、ほぼ同じような時代のものであっても、考察者によってその推量地が異なっている；事実、後になって、アメリカ合衆国政府の国税調査機関のものと、イ

ンディアン部族の機関が実施した数値の間でさえ、差が出てきている。こうした差が出てくる原因として考えられるのは、；たとえば、母系集団の部族では、その母方のおばあさんが Mandan 族である場合には、その人は、たとえ彼の、父方の親族、そして、彼の母方の父親がその背カの部族のものであったにしても、その人は Mandan の人間として集計されているからである。家系の規則の感化というものから離れて、部族間の婚姻というのも、その姿をあいまいなものにしていたのであろう。Shoshone の酋長 Washakie の息子は、もちろん常識的には、Shoshone の者として分類されたが、しかし、彼自身は、Flathead 族との混血で会ったし、また、かれは、Crow の一人の女と、そして、もう一人、Ute 族の女と結婚していた。

もちろん、理論的には、われわれは、時代の中の同じ点でのすべての部族・グループのデータを比較するべきであるが、しかし、われわれの持っている、いくつかの部族に関するもっとも古いデータは、必ずしも、同一時点のものではない。最近、アメリカ民俗学事務局の James Mooney は、1780 年の人口について裏づけのある推定をしていた；たとえばむ、白人達の影響が、西部のほとんどの部族に及ぶ以前手あるが、；そして、彼の仕事が A.L.Kroeber の Cultura Areas of Native North America の中での推定の、そして、後に J.R.Swanton の事務局での研究の元となっている。次に掲げる表は、比較的早い時代になされた調査の結果と、それ以後の何回かの調査の結果をまとめたものである：

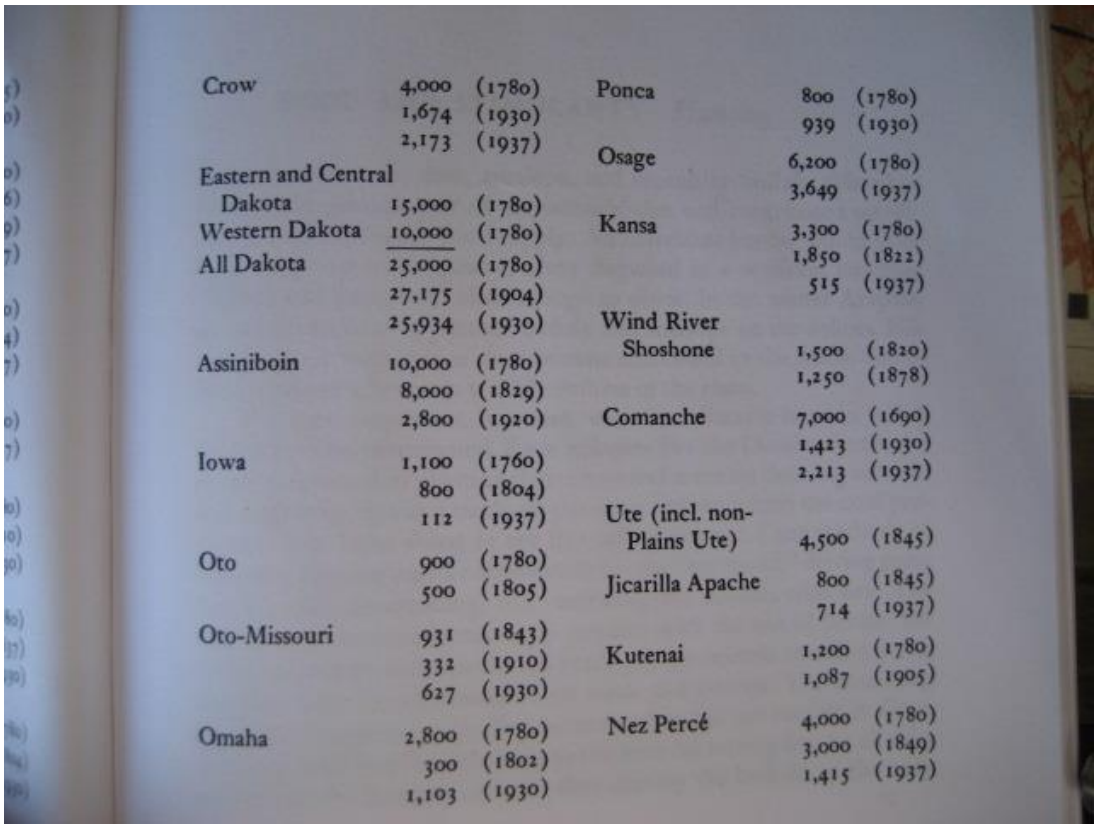


POPULATION OF PLAINS INDIANS

| | | |
|---|---|---|
| Northern Blackfoot | 2,400 | (1855) |
| Blood | 2,000 | (1855) |
| Piegan | 3,200 | (1855) |
| All Blackfoot | 7,600 | (1855) |
| | 15,000 | (1780) |
| | 9,000 | (1801) |
| | 4,600 | (1932) |
| Cheyenne | 3,500 | (1780) |
| | 3,055 | (1910) |
| | 2,695 | (1930) |
| Arapaho | 3,000 | (1780) |
| | 1,419 | (1910) |
| | 1,241 | (1930) |
| Gros Ventre | 3,000 | (1780) |
| | 510 | (1910) |
| | 809 | (1937) |
| Plains Cree | 4,000 | (1835) |
| | 1,000 | (1858) |
| Sarsi | 700 | (1670) |
| | 160 | (1924) |
| Kiowa Apache | 300 | (1805) |
| | 184 | (1930) |
| Pawnee | 10,000 | (1780) |
| | 4,686 | (1856) |
| | 1,440 | (1879) |
| | 959 | (1937) |
| Arikara | 3,800 | (1780) |
| | 2,600 | (1804) |
| | 616 | (1937) |
| Wichita | 3,200 | (1780) |
| | 385 | (1937) |
| Kiowa | 2,000 | (1780) |
| | 1,126 | (1910) |
| | 1,050 | (1930) |
| Mandan | 3,600 | (1780) |
| | 1,600 | (1837) |
| | 271 | (1930) |
| Hidatsa | 2,500 | (1780) |
| | 2,100 | (1804) |
| | 528 | (1930) |

この表から、通常 10,000 人の人口とも、あるいは、時には、1,000,000 以上とも言われるアフリカのネグロ族と比較して、分かることは、Plains Indian 部族の数は数字的にも非常に少ないということである。さらに、われわれは次のことも思い浮かべてみる必要がある。つまり、人口が 10,000 人、あるいは、それ以上に達するような部族は、それは、単に言語学的な分類を反映しているもので、もっとずっと小さな政治的な単位を反映しているものではないということである。こうしてみると、Pawnee 族は、政治的には、少なくとも四つの独立した部族からなりたっていたのである。

いつの時代も、Sarsi 族や　Kiowa Apache 族が明らかに小さなグループとして存在していたということは、彼らが常により大きなグループに付随していたということを示している。他の例を見てみると、大変な病か流行した後には、それ以前と比べると人口の急激な減少を見ることができる。1837 年に、Mandan 族は、天然痘のために大幅な減少をしたので、大流行以前には、1.600 人が居たと推定されているにもかかわらず、1850 年には、わずか 150 名が生き残っていたに過ぎない。そのあと、彼らの部族はわずかに増えたようだ。別のケースでも、病気や飢餓のために人口の急激な減少があり、そのあと、部分的に人口が回復されているものがある。戦闘とか、あるいは、狩猟に行き、そのときの不幸のために、Northern Plains のインディアン達の間では、居住保護区が制定される前には、成人の女性の数が、男性を数を大幅に上回っていた。しかし、その後は、両性間のバランスは徐々に均衡がとられていった。彼らの出生率はタカ、一方、死亡率は、飢餓からの開放や、衛生環境の改善により低くなりつつある。



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Crow | 4,000 | (1780) | Ponca | 800 | (1780) |
| | 1,674 | (1930) | | 939 | (1930) |
| | 2,173 | (1937) | Osage | 6,200 | (1780) |
| Eastern and Central Dakota | 15,000 | (1780) | | 3,649 | (1937) |
| Western Dakota | 10,000 | (1780) | Kansa | 3,300 | (1780) |
| All Dakota | 25,000 | (1780) | | 1,850 | (1822) |
| | 27,175 | (1904) | | 515 | (1937) |
| | 25,934 | (1930) | Wind River Shoshone | 1,500 | (1820) |
| Assiniboin | 10,000 | (1780) | | 1,250 | (1878) |
| | 8,000 | (1829) | Comanche | 7,000 | (1690) |
| | 2,800 | (1920) | | 1,423 | (1930) |
| Iowa | 1,100 | (1760) | | 2,213 | (1937) |
| | 800 | (1804) | Ute (incl. non-Plains Ute) | 4,500 | (1845) |
| | 112 | (1937) | Jicarilla Apache | 800 | (1845) |
| Oto | 900 | (1780) | | 714 | (1937) |
| | 500 | (1805) | Kutenai | 1,200 | (1780) |
| Oto-Missouri | 931 | (1843) | | 1,087 | (1905) |
| | 332 | (1910) | Nez Percé | 4,000 | (1780) |
| | 627 | (1930) | | 3,000 | (1849) |
| Omaha | 2,800 | (1780) | | 1,415 | (1937) |
| | 300 | (1802) | | | |
| | 1,103 | (1930) | | | |